

A 大阪地方におけるクレチン症マススクリーニングシステムについて

研究協力者

大阪市立小児保健センター	大	浦	敏	明
大阪大学中央臨床検査部	宮	井		潔

共同研究者

大阪市立小児保健センター	鶴	原	常	雄
	長	谷		豊
大阪大学中央臨床検査部	水	田	仁	士
大阪市環境保健協会	松	倉	一	晃
	菅	森	徳	蔵
大阪血清	川	島		実

クレチン症マススクリーニングの検査法としてTSH測定が行なわれているが、検査に日数がかかり、沓紙からの抽出にも1日を要するので、早期発見・早期治療の目的を達成するためには、検査を遅滞なく行くと同時に、事務的な流れを円滑に進めなければならない。また、わが国の産科では分娩1カ月後の母児検診が慣行的なので、その時迄に検査結果を主治医に報告しておく必要がある。しかもわが国の社会情勢として、結果は陽性陰性を問わずすべて書面で報告することが要求されている。このような事務的な業務をできるだけ正確かつ迅速に処理するため、大阪市環境保健協会では昭和53年度からマイクロコンピューターを導入した。その結果マススクリーニングの流れは図に示すごとくで、陰性の報告はほぼ生後3週頃、患者呼出しが23-25日、診断確定、治療開始は33-39日で、早期発見の目的をほぼ達成できた。

B 異所性甲状腺の5症例より見たTSHスクリーニングの有用性

大阪市立小児保健センター	福	田	優	子
	山	本	裕	子
	近	藤	琢	磨
	鶴	原	常	雄
	村	上		勉
	大	浦	敏	明

昭和51年11月より2年間に、大阪市立小児保健センター内科を受診した、新生児例を除く5例の舌根部異所性甲状腺例について、臨床的検討を行なった。その結果、異所性甲状腺による甲状腺機能低下症の中には、臨床症状に乏しく、 T_4 が正常下限でTSHの高値のみを認める軽症例が含まれ、早期発見のためにはTSH測定によるマススクリーニングが最も有用であるとの印象を得

た。(表参照)

大阪におけるクレチン症マスキリーニングの流れ

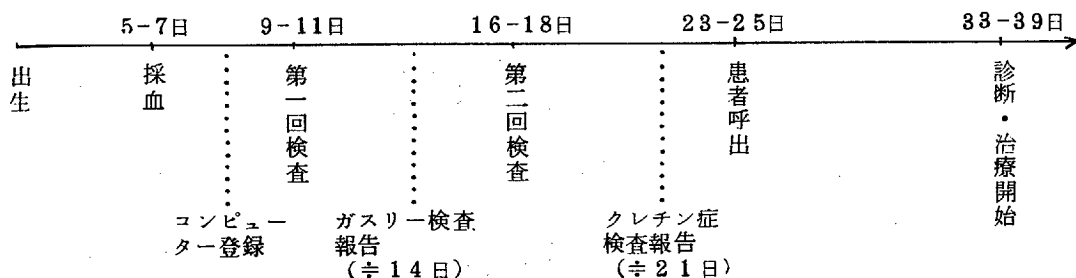


表 臨 床 所 見

C a s e	1 M. I	2 T. K	3 A. Y	4 M. T	5 T. A
S e x	M	F	F	F	F
初診時年齢	2才0月	5才1月	7才9月	9才8月	11才6月
主 訴	M R	低身長	M R	低身長	低身長
紹 介 医	産科医	保健所	身障者 センター	小学校長	小学校長
在胎週数	42 W	40 W	32 W	38 W	38 W
生下時体重	2950g	2550g	1600g	2560g	3100g
分娩形式	C / S	Breech	N S D	N S D	N S D
身 長	-2SD	-6SD	-6SD	-4SD	-4SD
顔 貌	クレチン様	異常なし	クレチン様	異常なし	異常なし
便 泌	+	+	+	+	-
D Q	63	49	17	98	94
Bone age	2M	6M	6M	7才	8才
T ₄ ng/ml	2	11	3	59	19
T ₃ ng/ml	0.46	0.54	0.46	1.28	1.01
T S H μU/ml	849	746	305	101	105
Cholesterol	231	256	525	296	255
C P K			31	27	12
B M R		-10%		-7%	-18%
甲状腺シンチグラム	舌根部	舌根部	舌根部	舌根部	舌根部

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

昭和 51 年 11 月より 2 年間に、大阪市立小児保健センター内科を受診した、新生児例を除く 5 例の舌根部異所性甲状腺例について、臨床的検討を行なった。その結果、異所性甲状腺による甲状腺機能低下症の中には、臨床症状に乏しく、T4 が正常下限で TSH の高値のみを認める軽症例が含まれ、早期発見のためには TSH 測定によるマススクリーニングが最も存用であるとの印象を得た。(表参照)